⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の3,173億円の受取超過から、145億円の支払超過となった。収入は、前年同期（２兆4,597億円）に比べ、１兆4,380億円増加して３兆8,978億円となった。一方、支出は、前年同期（２兆1,424億円）に比べ、１兆7,699億円増加して３兆9,123億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

保険の収支は、収入12兆8,802億円、支出12兆540億円、差引き8,261億円の受取超過であって、前年同期（6,557億円の受取超過）に比べ、1,705億円受取超過額が増加した。

３　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成27年度第２・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	368,108	214,736	153,372	358,426	228,266	130,160
国債(１年超)	351,116	201,243	149,872	344,940	216,779	128,161
借入金	16,992	13,493	3,499	13,486	11,487	1,999
国庫短期証券等	955,789	784,467	171,322	1,050,632	822,274	228,358
国庫短期証券	840,289	668,967	171,322	945,632	717,274	228,358
一時借入金	115,500	115,500	0	105,000	105,000	0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、15兆3,372億円の受取超過であって、前年同期（13兆160億円の受取超過）に比べ、２兆3,212億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行35兆1,116億円、償還20兆1,243億円、差引き14兆9,872億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入１兆6,992億円、償還１兆3,493億円、差引き3,499億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、17兆1,322億円の受取超過であって、前年同期（22兆8,358億円の受取超過）に比べ、５兆7,035億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行84兆289億円、償還66兆8,967億円、差引き17兆1,322億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆5,500億円、償還11兆5,500億円、差引き０億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	11,352	△ 59,203	△ 47,851
特別会計等	△ 3,171	122,688	119,517
財政投融資	40,187	△ 12,842	27,345
外国為替資金	△ 145	8,703	8,558
保険	8,261	△ 8,999	△ 738
その他	△ 51,475	135,826	84,352
小計	8,181	63,485	71,666
国債等	153,372	△ 8,578	144,793
国債（１年超）	149,872	△ 5,200	144,673
借入金	3,499	△ 3,379	121
国庫短期証券等	171,322	△ 54,907	116,416
国庫短期証券	171,322	△ 53,000	118,323
一時借入金	0	△ 1,907	△ 1,907
合計	332,875	—	332,875
調整項目	2,615	—	2,615
総計	335,490	—	335,490

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成年27度第２・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 223,639	△ 240,543
特別会計の債券売・買(△)	4,317	△ 71,918
財政投融資	14,900	△ 17,000
国債整理基金	△ 10,583	△ 54,918
その他	△ 63,840	△ 61,241
計	△ 283,162	△ 373,702

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、28兆3,162億円の支払超過であって、前年同期（37兆3,702億円の支払超過）に比べ、９兆540億円支払超過額が減少した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達１兆2,465億円、資金返済23兆6,104億円、差引き22兆3,639億円の支払超過であって、前年同期（24兆543億円の支払超過）に比べ、１兆6,904億円支払超過額が減少した。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、前年同期の７兆1,918億円の支払超過から、4,317億円の受取超過となった。財政投融資は、前年同期の１兆7,000億円の支払超過から、１兆4,900億円の受取超過となった。国債整理基金は、１兆583億円の支払超過であって、前年同期（５兆4,918億円の支払超過）に比べ、４兆4,355億円支払超過額が減少した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、６兆3,840億円の支払超過であって、前年同期（６兆1,241億円の支払超過）に比べ、2,599億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（33兆5,490億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（2,615億円の受取超過）を除いた収支は、33兆2,875億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、28兆3,162億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（１兆2,783億円）に比べ、４兆9,713億円増加して６兆2,496億円となった。